

センター試験直前

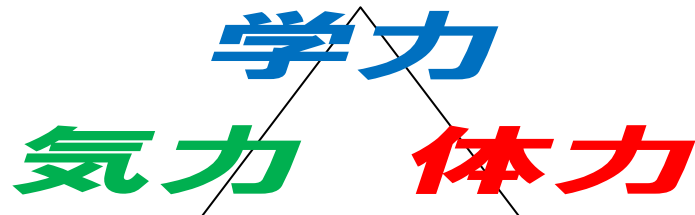
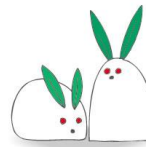
橘は最後まで、絶対に伸びる

— 残り時間を決して無駄にするな！ —

ついにセンター試験まで30日を切りました。残された時間はまだありますから、最後まで諦めずベストを尽くしましょう。年末年始の休業日は全科目のレベルを上げる最後のチャンスです。この貴重な残り時間を絶対に無駄にはしてはいけません。くじけそうになることもあると思いますが、最後まで戦い抜きましょう。負けるな、橘3年生！

特集 センター直前の戦い方

本番で『自己ベスト』を更新するための準備をする



大事なことは、センター試験当日に、これまで身につけてきた実力を100%発揮するための準備をすることです。そして、ぜひ、センター試験では「自己ベスト」を更新して最高の結果を出してほしいと思います。そのためには、「学力」の向上に加えて、「気力」と「体力」のピークを、しっかり本番に合わせられるよう調整していきましょう。

① 基礎知識問題を確実に正解する

センター試験で一番差がつくのは、実は「基礎知識」を問う問題で、こうした正解率の高くなる問題を確実に正解することが大事です。ここからは、基礎事項を再確認し、知っていれば取れる問題を確実にものにすることにも努めましょう。最後の模試でも、こうした取りこぼしがたくさんあったはずですが、これらを無くせば、合計点はまだまだ上がります。

② 「全科目」の演習問題を徹底的に復習する

これまでの授業や課外で行った「テスト形式の演習」をしっかり復習することが最重要です。特に、正解率が低かった問題や、苦手分野に関しては、再度時間をかけて取り組み、理解を完全なものにしましょう。また、特定の科目に偏ることなく、全科目のレベルアップを図りましょう。

③ 健康管理も大事な受験準備の1つ

十分な休養を摂って 心と体の健康を保つ

「病は気から」といって、気合が入っている時は免疫力も高まるようですが、ここからは、体に負担をかけるような無理はせず、十分な睡眠と栄養を摂っていきましょう。そして、感染症予防のため、「うがい・手洗い」を、こまめに行うことも大事です。また、インフルエンザの流行も始まっていますから注意しましょう。また、できるだけ無駄な外出は避けるべきです。通学に、電車やバスなどの不特定多数の人が集まる公共交通を利用している人は、一層の警戒が必要です。

これからの長い受験期間を戦い抜くには、学力以上に「体力」が必要です。体力を落としては、ここ一番で実力を発揮できません。



④ 生活リズムを試験時間に調整

年末年始の『昼夜逆転』は絶対ダメ

センター試験の1時間目の開始時間は9時30分。つまり、普通の授業の1時間目です。すでにエンジン全開になっていないといけないということです。現在、朝がつかなく、「夜になると調子が上がる」という人は要注意。今後は、体内時計を、試験時間に合わせていくことが必要になります。冬季休業中は「昼夜逆転」などにならぬよう注意し、授業日と同様に行動することを強く勧めます。年末年始に生活リズムを狂わせてしまうと、取り戻すのがかなり難しくなります。十分注意しましょう。

⑤ 受験勉強は『団体戦』

互いに励まし合って最後まで戦い抜こう



これまで何度も言われてきたように、受験自体は誰に力も借りることのできない究極の個人戦ですが、受験勉強は「団体戦」です。高校生は、どんな雰囲気の中で勉強したかによって、その効果に違いが現れるものです。互いに励まし合い、競い合いながら、最後まで諦めることなく戦い抜く集団であってほしいと思います。1人で勉強するのは大変つらく、心細いものですが、一緒にやり抜く仲間が大勢いれば、きっと心強いことでしょう。そして、1月のセンター試験から始まって、2月の私立大入試、国公立大前期日程、さらに、3月の後期・中期日程試験と、継続して挑戦していくことができれば、現役合格のチャンスが広がります。

【センター試験直前・直後の日程】

1月 4日(金)・5日(土)	センター試験直前演習(センター試験と同様の日程で実施)
18日(金)	センター試験直前指導 4校時で終了
19日(土)	センター試験1日目(社会・国語・英語) 会場:福島大
20日(日)	2日目(理科・数学)
21日(月)	自己採点日
28日(月)~2月6日(水)	分析結果を基に面談を行い国公立大の二次出願先を決定 国公立大二次出願(前期、後期、中期まとめて出願)

1,2年生へ

❁ 年末年始は進路について考えよう



将来の選択肢を広げておくべき時間

教科の勉強に加え、進路に関する情報を集め、正しい知識を持つこともたいへん重要です。自分に必要な情報は、誰かに与えられるのを待っているのではなく、自分の力で集められるようになってほしいと思います。また、年末年始は、家で過ごす時間が長くなります。ぜひ、保護者と進路について話し合う時間を設けましょう。

2年生は「総合的学習の時間」の中で、一応、現時点での第一志望大の「志願理由書」を書くことになってはいます。しかし、本当の出願先を決定するのは3年生になってからの話ですので、まず、1、2年生のうちには、スマートフォンやパソコンなどを情報機器を有効に活用したり、オープンキャンパスに参加したり、先輩や卒業生の話を聞いたりすることを通して、さまざまな大学、学部・学科の情報を収集し、選択肢を広げておくことが大事になってきます。そのうえで、最終的に、自分の希望と学力に合った大学探しをしていくことになるのです。

1 進路に関する情報を集める

① 学部・学科の研究

大学にはさまざまな「学部・学科」があります。それぞれが、何を勉強するところなのかを、しっかり理解したうえで、正しい選択をすべきです。同じような名前でも、特徴はさまざまで、研究内容や取得できる資格は異なります。ぜひ、複数の学校について調べ、比較検討してみましょう。

また、「学部・学科」の選択は、卒業後の「職業選択」に大きく影響します。ゆえに、今から、将来どんな職業に就きたいのか、それぞれの学部に進むとどんな職業に就けるのかなどを調べておきましょう。

② 入試方法の研究

センター試験のしくみをはじめ、受験の方法に関しても、大学ごとにさまざまです。自分が受験したいと考えている学校が、どのような「受験科目と配点」で受験を行っているのか、しっかり理解しておきましょう。



2 保護者と進路に関する話をする

自分の将来に対する考えを伝えるとともに、保護者の意見や要望も聞いておきましょう。面倒くさがって、問題を先送りにしてはいけません。3年生になって出願先を決定するという時になって初めて、進学先を巡って保護者との意見の対立が生じ、問題が大きくなっていくというケースがこれまでたくさんありました。受験直前の最も勉強に専念したい時期なのに、精神的に動揺して勉強が手につかなくなってしまうような事態はぜひ避けたいものです。

さらに、「学費」や「生活費」がどのくらいかかるのか、事前によく調べて保護者に伝えておきましょう。そして、今から計画的に費用の準備をしていただくようにしましょう。

☆2年生は“3年0学期”

『次は自分だ』という自覚を

2年生にとっては、受験まであと1年です。全国的には、この時期から本格的な受験勉強を始めるのが基本とされます。そして、大学受験の世界では、2年生の終わりの時期を、「3年0学期」と名付け、受験勉強の開始を呼びかけています。この全国の動きに乗り遅れてはいけません。

現在の3年生の姿は、1年後の自分たちの姿そのものです。3年生の今後の様子を見て、自分たちが、いつまでにどんな準備をしておかなければいけないのかをしっかりと学んでおくべきです。

◇ 家庭学習は定着しているか!?

① 自己管理能力が求められる

ここからは、勉強に対する意識を変えて、本格的な受験勉強を始めることが必要です。家庭での学習時間をしっかり確保し、何があっても家で毎日勉強をするのが当たり前の生活に変えていきましょう。残念ながら、3年生から始めたのでは、現在の進路目標に到達するのは困難です。

また、家庭学習に集中するためには、家庭での「スマートフォン」の使い方がカギを握っていると思われる。確かに便利な道具ですが、使い方を誤って、自分が今、本当にやるべきことが何かを見失うことのないよう、しっかり「自己管理」をしてほしいと思います。

② 英数国の基礎を固める

3教科バランスの良い者が第一志望に近づける

とりわけ、「英数国」の3教科の家庭学習の習慣は大事で、3年生の夏休みまでは、この3教科を重点的に強化していくのが標準的な勉強法です。これらの教科は、大学入試での配点が高く、内容も豊富なので、時間をかけて勉強しないと実力を高めることが難しいという特徴があります。それゆえ、3年生から始めても、目標点まで伸ばしきることができずに終わる人がたくさんいます。ぜひ、2年生のうちから、これまで学習した内容の基礎・基本をしっかり身につけておきたいものです。

また、最終的に志望大に合格していく人は、「英数国」の3教科の中に、極端な苦手教科を持っていないという共通点があります。さらに、文系なら「英・国」、理系なら「数・英」の2教科の組合せを得意にできるとかなり有利になります。

③ 模試を目標に これまでの復習を始める

次回の「1月進研模試(1/18・19)」を目標に設定

模試を目標に勉強をするのが受験勉強の基本です。まずは、次回の1月進研模試を目標に設定し、2年間の学習内容の復習(「英数国」中心)を始めましょう。そして、模試の結果からこれまでの学習の定着状況を確認していきます。これを最後まで繰り返していくことが受験の基本で最も効果的な方法の1つです。